総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要（平成25年度）

２．分野等別状況　（２）地域活性化総合特区　④観光分野（3/5）

	評価区分（*1）	総合評価（ⅠとⅡの平均値にⅢを加味）	Ⅰ目標に向けた取組の進捗に関する評価	Ⅱ支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ現地調査時の指摘事項及び対応状況　等（*2）	総合評価に係る専門家所見（主なもの）
和歌山県「高野・熊野」文化・地域振興特区（和歌山県）	正	B 3.6	B 3.7 進捗度 ・世界遺産関連地域における観光客総数（延べ人数） 95% ・世界遺産関連地域における外国人宿泊客総数（延べ人数） 142% 等	B 3.5 規制の特例等 ・地域活性化総合特別区域通訳案内士育成等事業 財政支援等 ・重要文化財（建造物）修理事業 等 地域独自の取組 ・和歌山県世界遺産緊急保全対策事業補助金（重要文化財等の維持管理、災害時などの応急修繕等） 等	±0.00	・総合特区計画の目標に掲げられている「世界遺産研究・情報発信」について、今回、世界遺産に関する講義等をとおして次世代育成が謳われたこと（※1）は好ましい。 ・反面、国内外からの観光客受入促進については、誘客プロモーション事業（※2）が前面に出ており、「持続可能な観光地づくりにつながる取組み」が見えないことは課題である。 ・通訳案内士の育成については、今後、その活用を具体的にどのように図っていくのか、明らかにすることが求められる。 ・各評価指標とマクロでみた場合の観光客の増加等とどうつながるのかの関連性及び戦略性を確認できればなおよい。 （※1）新宮市文化複合施設の開設が遅れていることから、世界遺産に関する講義と現地ウォークなどを組合せた次世代育成事業を実施し、延べ1,348人の受講者があった。 （※2）平成25年の伊勢式年遷宮、26年の世界遺産登録10周年、27年の高野山開創1200年等を契機とした大型プロモーション活動やメディア対策が計画されている。

◆評価書はこちら　　◆評価結果はこちら

*1）「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。　　*2）「Ⅲ」については、「地方公共団体による総合評価の状況について」も評価している。